官学協働のまちづくり

聖学院大学 学長 姜（かん） 尚中（さんじゅん） × 上尾市長 島村 穣

次代を担う4人の学生

「市区町村の半分が消滅するかもしれない」。昨年5月、日本創成会議が衝撃的なリポートを発表しました。人口減少・超高齢化社会の到来・激化する都市間競争。地方はこれまでにない厳しい状況に置かれています。

そんな中、今後も自立的・安定的な都市経営を実現させるためには、地域で支え合い協働のまちづくりを進めることが重要になります。

大学と行政が地域社会の価値を再認識し、互いに協力しながらまちづくりを進める―。その先にはきっと上尾の明るい未来が待っています。

市長　明けましておめでとうございます。本日は昨年4月に聖学院大学の学長に就任された姜尚中さんと、聖学院大学の4人の学生さんにお越しいただきました。

日ごろから聖学院大学の皆さんにはいろいろな分野で市政にご協力いただいていますが、今日は上尾市の魅力や大学と行政が協力したまちづくりについて、大いに語り合いたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

全員　明けましておめでとうございます。どうぞよろしくお願いします。

〝第二のふるさと〟上尾

市長　学長さんは以前、上尾市にお住まいでしたね。上尾にはどんな印象をお持ちですか？

学長　35年ほど前になりますが、上尾市に住んでいたことがあります。

開発が進む一方、武蔵野の面影が残り、調和がとれたまちだなと感じました。上尾丸山公園には2日に1度は通っていましたよ。

上尾は新たに移り住み、長く暮らしている人が非常に多く、定住の地という印象が強いですね。私にとっては「第二のふるさと」です。

市長　ありがとうございます。上尾は交通の便に優れ、災害も少なく、定住する人がとても多いまちです。

これからも、上尾に移り住んできた人に「第二のふるさと」と感じてもらえればうれしいです。

岩嵜さんは現在、市内にお住まいでしたね。岩嵜さんから見た上尾市の印象はどうですか？

岩嵜　私の周りにも市外から引っ越してきて、上尾に住み

プロフィル

姜 尚中（かん さんじゅん）
（聖学院大学学長）

1950年熊本県生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。旧西ドイツ・エアランゲン大学に留学後、東京大学大学院教授などを歴任し、2013年に聖学院大学の教授に就任。2014年4月から同大学学長。テレビ・新聞・雑誌などで幅広く活躍。

會田幸未（あいた ひでみ）
人間福祉学部人間福祉学科4年

岩嵜勝矢（いわさき かつや）
人間福祉学部こども心理学科3年

山田襟佳（やまだ えりか）
人間福祉学部こども心理学科3年

杉本太志（すぎもと たいし）
人文学部日本文化学科2年

市長新春座談会

続けている人がたくさんいます。それだけこの地は住みやすいということだと思います。私も上尾のまちが大好きです。

市長　山田さん、會田さん、杉本さんはいかがですか？

山田　以前、アカペラ部で市のイベントに参加させてもらったことがあります。子どもからお年寄りまでたくさんの人が集まり、地域のイベントを通じて年齢に関わらずに交流しているなと感じました。

會田　私は山形県出身で、高校3年生のときに初めて上尾に来ました。まち全体に活気があり、買い物をするにも出掛けるにも、とても便利だと思いました。このまちが気に入り大学も聖学院に決めました！

杉本　課外活動などを通じた地域交流の機会が多くありますが、地域に出ると「聖学院の学生さんだね」と気さくに声を掛けてくれます。温かみのある人が多いと思いました。

市長　皆さんが感じているとおり、上尾はとても住みやすく、人と人との交流が盛んなまちです。これは私の自慢でもあります。

ローカルな大学を目指して

市長　姜さんは学長に就任されて以来、地域の力の重要性を強調されています。どんな大学を目指しているのでしょうか。

学長　今ほど地域で支え合うことの重要性がクローズアップされている時代はないと思

官学が一体となって進めるまちづくりが理想

います。就任してすぐに言ったことは「地域密着型の大学になろう」ということ。グローバルな大学を目指すことはもちろん大切ですが、ローカルな視点をおろそかにしていては、グローバルはあり得ないと考えています。

市長　確かにローカルな視点を大切にすることは、とても重要なことだと思います。足元をしっかり固め、発展させることで、その先にグローバルが見えてくるということですね。

学長　グローバルでありながら地域に根差したローカルな大学として、地域と共存できる大学が理想です。

行政に対してもインターフェース（接点）を増やして、大学で蓄積したものを市政に生かせることができたらと考えています。

地域に貢献できること

市長　聖学院大学とは連携に関する包括協定を結ばせていただいています。先生方には、これまでもいろいろな分野で市政に協力いただいていますが、学生の皆さんは地域や行政への関わりをどう考えていますか。

會田　私は精神保健福祉士として、障害のある人でも暮らしやすいまちづくりに貢献できたらいいなと思っています。上尾市もそんな温かみのあるまちになってほしいです。

「道（どう）」という道

市長　分け隔てなく、誰でも安心して暮らせるまちが理想ですね。上尾市では「笑顔きらめく〝ほっと〟なまち あげお」を将来都市像に掲げています。この〝ほっと〟には誰もが安心して暮らせるという意味もあるんですよ。

會田　知りませんでした。奥が深く、素晴らしいですね。

私は実家に帰ったとき、大学がある上尾市のことを宣伝しています。上尾市に誇りを持っていますから。

市長　山形で上尾のことを宣伝してくださるなんて、うれしいですね。

杉本　私は「埼玉学」という授業で地域社会のことを学んでいます。地域の人たちの話を聞き、さまざまな問題を抱えていることが分かりました。問題解決に少しでも貢献できればと思っています。

市長　地域を学ぶことはとてもいいことですね。その中からいろいろなことが見えてきますし、何と言っても地域の人との強い信頼関係が生まれます。

杉本　学長をはじめ大学の先生方も、地域での活動を全面的にバックアップしてくれます。これからも継続して行動していきたいと思います。

山田　高校生のころまでは、地域や政治には全く興味がありませんでした。ですが、東日本大震災の復興支援ボランティアを通じて、自分にも地域を動かすことができるということに気付きました。

市長　私も被災地に何度も足を運んでいますが、現地では山田さんのような若い力を求めています。復興支援ボランティアは究極の地域貢献と言えるかもしれません。

山田　この経験は自分を成長させてくれたと感じています。ボランティアをはじめ、さまざまな場面で、自分にしかできないことがあると思うので、残りの大学生活の中では、そのことを意識して過ごしたいと思います。

岩嵜　私も被災地での復興支援の他、市内の保育所でもボランティア活動をした経験があります。実際に地域や現場に関わってみると、今まで見えてこないことが多々ありました。

市長　確かにそうですね。現

ともに歩む「協（きょう）」

今ほど地域で支え合うことの重要性がクローズアップされている時代はない

場で感じ取ったことをまちづくりに生かしていけたら素晴らしいと思います。

岩嵜　まちづくりは人と人とのつながりが基本になると思っています。地域の人と接点がある仕事に就いて、少しでも上尾のまちづくりのお手伝いができたらと考えています。

市長　皆さんがこれまで経験してきたことや感じていること、そして、柔軟な発想とパワーがこれからのまちづくりには極めて重要であり、とても期待しています。

学長さん、しっかりと考えを持った素晴らしい学生さんたちですね。

学長　我々の時代とは違って、出世したいとか金儲けしたいという考えではなく、彼らは人のために働くことが自分の喜びという考えを持っています。周りの、あるいは社会の幸せが、自身の幸せにつながる。そんな発想を持った学生が増えているように感じます。

私はその考えこそ、今後の社会や地域を変える原動力になるものだと確信しています。

市長　それはまさに協働のまちづくりに共通する考えと言えますね。

大学と行政の理想的な関係

市長　これから社会に飛び立つ学生に対して、学長さんが求めることは何でしょうか。

学長　学生には、何事にもめげないこと、そしてマニュアルだけに頼らず、自分で考えて行動できる人間になってほしいです。そんな学生を上尾市や埼玉県に送り出したいと思っています。

市長　確かにマニュアルだけに頼っていては、なかなか本来の力は発揮できませんね。自らの力で難局を乗り越えられるような人材が上尾のまちづくりに携わってくれたら、こんなに頼もしいことはありません。

では大学が地域に果たす役割、あるいは大学と行政の理想的な関係についてはどうお考えですか。

学長　これからの大学は、もっと地域に開放的であるべきだと考えています。災害時には避難所として活用することになっていますが、大学の門をさらに開けて、例えば、大学の図書館を市民の皆さんに開放するなど、地域の拠点・憩いの場所として利用していただけたらいいと思います。

市民の皆さんにとって、もっと身近な大学になること、それが私の願いです。

市長　大学施設の開放が一つのきっかけになって、人が集い、新たな交流の拠点が創出できれば、こんなに素晴らしいことはないですね。

学長　大学が地域に果たす役割は、そんなところにあるのではないでしょうか。

将来的には市の事業や機能の一部を、大学が担うことだって有り得るわけです。

市長　行政ではフォローできない部分や目の届きにくい部分を大学が補う役割を担うことで、いろいろな相乗効果も期待できますね。そんな関係が築けたら、上尾の未来は明るいと思います。

本日、学長さんや学生の皆さんの考えを聞かせていただき、行政を担う者として大変心強く思いました。それと同時に、官学が一体となったまちづくりの重要性と必要性を痛感しています。

今後もよきパートナーとして、上尾のまちづくりに力を貸していただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

全員　ありがとうございました。